

第5回 平成9年度 受賞者

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人
鷺舞保存会（島根県津和野町）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体
遊佐町民俗芸能保存協議会等（山形県遊佐町）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人
石水 信至（愛媛県西条市）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの
竹中 義雄（岐阜県揖斐郡谷汲村）

受賞者 プロフィール

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

鷺舞保存会（島根県津和野町）



弥栄神社の例祭として執り行なわれる鷺舞は、もともと京都より山口へ伝えられたものが、天文11年（1542）に津和野城主が津和野へ持ち込んだのが起源とされている。

その後、一時中断していたが亀井氏入城により、諸式の復興がなされた。寛永20年（1643年）3代藩主が直接京都祇園会の鷺舞を伝授させ、復興、今に至っている。

7月20日神輿が御旅所へ渡御の際に供奉し、27日の還御の際に再び供奉され、祇園祭の日には古式そのままに優雅な鷺舞を見る事ができる。（現在は、中日として24日にも行われている。）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

遊佐町民俗芸能保存協議会等（山形県遊佐町）



遊佐町民俗芸能公演会は、昭和35年以来毎年開催され平成8年まで37回、実施されてきている。

遊佐町に古くから伝わる民俗芸能の公演を中心としながらも、近年では近隣市町、県外の団体を招待し、鳥海山周辺に伝わる民俗芸能を町民に紹介するなど、より魅力的な公演会の企画実施を目指している。この長い歴史を持つ遊佐町民俗芸能公演会に出演し、支えてきた遊佐町内の主要な民俗芸能保存団体（国指定1団体、県指定2団体、町指定4団体、他1団体計8団体）が、集まって結成されたのが遊佐町民俗芸能保存協議会である。

特色のある遊佐町民俗芸能公演会の実施を始めより一層の民俗芸能の保存・伝承や対外的な紹介に大きな役割を果たしている。

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

石水 信至（愛媛県西条市）



石水氏は、毎年10月中旬に行われる愛媛県西条市の「西条まつり」に奉納される“だんじり”の彫刻師として18歳から製作を手掛け、西条だんじりの彫刻技術を継承している西条唯一の若手職人である。

西条まつりは市内4つの神社で行われる秋季大祭で、120台余りのだんじり・みこし・大鼓台が奉納される全国でも類を見ない規模と豪華絢爛さを誇るまつりとして知られ、毎年多数の観光客が訪れる。

なかでも“だんじり”は市内に約120台あり、石水氏はこれまで新調16台、改造4台の計20台を手掛け、だんじりの新調ブームを起こし、奉納台数を誇る西条まつりの発展に大きく貢献している。

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

竹中 義雄（岐阜県揖斐郡谷汲村）



谷汲踊は、800年前より伝わる武者踊りで、源氏が源平合戦の勝利を祝って踊ったのが始まりと伝えられている。その後、明治末頃までは盛大に行われていましたが、社会情勢の変化に伴って次第に衰退して後継者のいない状態が40年近く続いていた。

竹中義雄氏は、中断していた谷汲踊りの復興を思い立ち、多額の資材を投じて昭和27年に谷汲踊保存会を設立し往古の歴史と永い伝統のあるこの踊りを復興させた。以来満45年を経過しようとしています。竹中氏はこの間続いて保存会長を努め、この谷汲踊りを、日本を代表する伝統芸能の一つに育て上げた。